

# 施設改修により火災発生、放射性物質の漏洩・拡散を回避する （千葉県千葉市）

## ＜施設内の焼却設備内耐火煉瓦の脱落防止＞



## ＜施設内の汚染施設設備を撤去＞



対策名： 99 量子科学技術研究開発機構被ばく医療共同研究施設改修  
対策

主たる施策グループ： 2-1) 自衛隊、警察、消防、海保等の被災等による救助・救急活動等の絶対的不足

事業名： 被ばく医療共同研究施設の改修



教育・文化等

- ポイント
- 耐火煉瓦の脱落防止壁の設置、放射性物質を取り扱う施設設備の撤去等を実施し施設の安全性を確保
  - 撤去等により確保されたスペースを有効利用

### 地域の概要・課題

量子科学技術研究開発機構（QST）の被ばく医療共同研究施設は、建設から約40年近く経過し、施設内の設備等の老朽化による火災発生や放射性物質の漏洩リスクが高まっており、十分な安全性を確保できない状態が課題となっていました。さらに、災害発生時の被ばく事故対応等で発生する放射性廃棄物を安全に保管する施設のスペースが限られていることも課題となっていました。

### 事業の概要

老朽化による火災の発生や放射性物質の漏洩を未然に防ぐ対応として、老朽化した焼却設備の耐火煉瓦の脱落防止壁の設置や、放射性物質を取り扱う設備の撤去等を実施したことで、安全性を確保するための改修は完了いたしました。

### 見込まれる効果

施設の改修等により、施設老朽化や施設設備の故障等による火災発生、放射性物質の漏洩・拡散につながるリスクを回避し、安全性を確保できます。

また、同改修により放射線管理区域内のスペースが拡張され、災害発生時の被ばく事故対応等で生じる放射性廃棄物を保管する施設として活用することができるようになります。

これらの効果はQSTが担う放射線被ばく事故への対応を支える基盤の向上に資することが見込まれます。



スペースの拡張により、災害発生時の被ばく事故対応によって生じる放射性廃棄物の保管容量が増加。

1 激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策  
(1) 人命・財産の被害を防止・最小化するための対策

(2) 交通ネットワーク・ライフラインを維持し、国民経済・生活を支えるための対策

2 予防保全型インフラメンテナンスへの転換に向けた老朽化対策

3 (1) 国土強靱化に関する施策のデジタル化

(2) 伝達の高精度化  
災害関連情報の予測、収集・集積